

清 建 土 第 106 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

静岡県清水町長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号による依頼について、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案

静岡県清水町

本町をはじめ、地方の道路整備水準は、質・量ともまだ十分とは言えません。住民が求めている道路網を構築するためには、「財源の確保」及び地域の実情に即した道路構造にしなければなりません。

従って、本年5月13日に閣議決定された「道路特定財源等に関する基本方針」では、「道路関連公益法人や道路整備関係の特別会計関連支出の無駄を徹底的に排除する」、「必要と判断される道路は着実に整備する」、「道路の中期計画は5年とし、最新の需要推計などを基礎に、新たな整備計画を策定する」と示されるとともに、「道路構造令」の見直しの検討が掲げられておりますので、これらのことを速やかに、また、確実に実施されるよう要望いたします。

②－１ 地域の現状と抱える課題

静岡県清水町

○現状

本町は、伊豆の玄関口として、県東部地域の中心都市である沼津市と三島市の間に位置し、町の中央を国道１号が東西方向に通過するとともに、東名高速自動車道沼津ＩＣやＪＲ東海道新幹線三島駅に近く、県東部地域の交通要衝地に位置していることから、広域的な交通の利便性が非常に高い状況となっている。

そのような中、本町における道路の現状は、国道・県道等幹線道路が集中しているものの、道路整備水準は、質・量ともまだ十分とは言えないため、生活道路までにも通過車両が進入して交通渋滞や交通事故が多発し、経済活動にも支障をきたしている。

○課題

住民生活の安定と向上を図り、快適な生活空間を築くために道路整備は必要不可欠であり、円滑な道路体系の確立に向け、幹線道路の体系的な整備と高齢者や身体に障害のある人が安心して利用できる道路整備を進める必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

静岡県清水町

【将来都市像 豊かさを実感できる生活都市・清水町】

本町は東京100km圏に含まれ、県東部地域のなかでも沼津市、三島市を中心とする中核的な都市圏に位置し、JR東海道新幹線、東名高速自動車道などを利用した広域交通利便性などから、住宅地を中心として市街化が進んできた。

県東部地域は、今後も新東名高速自動車道や東駿河湾環状道路などの高速交通網の整備によって、一段と利便性が高まり、豊かな自然環境を背景に、首都圏などからの住宅や企業の立地圧力がこれまでも増して高まるものと予想される。

一方、わが国は本格的な高齢化社会、国際化社会、高度情報化社会を迎えようとするなかで、人々の意識や価値観は変化し、単なる物質的、画一的な豊かさから、精神的、個性的な、言わば一人ひとりの生活のなかに展開される真の豊かさが求められるようになっていく。

こうした中で、本町は、従来からの立地条件のよさを生かすとともに、町内外の環境変化を適切に受け止めつつ、安全で美しく快適な環境のもとで、そこに住む一人ひとりがお互いに支えあいながらも、それぞれの価値観に沿った生活を営むことができる選択の幅の広さ、多様さを有する、すべての町民がここに住んでよかったと実感できる都市を目指す。

【道路】

①道路交通網の整備

- ・幹線道路の整備 周辺市町と連携して主要道路網を体系的に配置するとともに、都市計画道路を中心として、円滑な交通の確保と災害時に的確に対応できる効果的な整備を図る。また、主要道路を補完する補助幹線道路の整備・拡充を図る。
- ・生活道路の整備 市街地整備に合わせて計画的な整備を推進するとともに、地域住民の協力を得ながら、市街地内の狭い道路の拡幅に努める。

②道路環境の整備

- ・交通安全施設の整備 防護柵や道路照明灯、区画線の設置とともに、障害者、高齢者や子供などを含め、だれもが安全で利用しやすい歩道の整備やバリアフリー化を進め、円滑な自動車交通環境の整備を進める。
- ・うるおいのある道づくり 街路樹による道路の沿道緑化やポケットパークの整備、電線類の地中化等を進め、質の高い道路空間の形成を図る。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

静岡県清水町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
生活道路の向上	都市計画道路西間門新谷線の整備	国道1号のバイパス的役割を持つとともに、交通の分散化、沿道の土地利用、地域の活性化等が期待できる。	
都市交通の快適性、利便性の向上	伊豆縦貫自動車道（東駿河湾環状道路）の整備	国道1号の渋滞解消と通過交通量の削減、また、都市と地方の格差是正や地域の活性化が図られ、災害時・緊急輸送路としての機能が期待できる。	
都市交通の快適性、利便性の向上	東駿河湾環状道路岡宮IC以西の早期事業化	国道1号の慢性的な渋滞解消と通過交通量の削減が図られる。	
総合的な交通安全対策及び聞き管理の強化	県道下土狩徳倉沼津港線の歩道整備と徳倉橋の歩道設置	21,000台/日と自動車交通量が多く、1.5m未満の狭い歩道及び歩道橋を自転車と歩行者が輻輳して危険であり、特に学校へ通学する約830人の児童・生徒の安全確保が図られる。	
計画的・効率的な維持管理や更新の推進	県道下土狩徳倉沼津港線の徳倉橋の整備	昭和35年に架橋され約50年経過して老朽化が進み、耐震性もないことから、橋梁の延命化を図る。	